

教科名	国語	単位数	2 単位	担 当 者	太田幸夫・西畑晋也・鶴間乃笛子
科目名	論理国語（共通）	年次	3		
使用教科書 副教材等	大修館書店「論理国語」 「プレミアム国語便覧」 「大学入試 国語頻出問題1200」 「大学入試共通テスト演習 現代文」 「現代文速読トレーニング3」 「共通テスト国語過去問題集総合版」 「現代文解法のテクニック 速読+多読 実用・論理」				
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）					
（知識・技能）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 （思考力・判断力・表現力等）論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （学びに向かう力・人間性等）言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
2 学習の評価（評価規準と評価方法）					
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力、判断力、表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度		
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
主たる評価方法	小テスト（週1回） 考査（年3回） 確認テスト（適宜） 提出物（適宜） 授業時の観察	考査（年3回） ※「読む」領域 提出物（適宜） ※「書く」領域 確認テスト（適宜） 授業時の観察	提出物（単元毎振り返り／課題） 小テスト（取り組みの状況） 授業時の観察 ※単元毎の振り返り ※応用的課題の提出		
占める割合	30%	50%	20%		
3 学習の目標と振り返り					
	≪目 標≫ ～何ができるようになりたいか具体的に～		≪振り返り≫ ～学習の振り返りと今後の課題～		
前期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		
後期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		

学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ(読む)	○	◎		筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。	考查
	「相手を意識して書く」(書く)		◎	○	相手の予備知識に応じて情報を整理し、文章構成を工夫して、主旨を的確に伝えている。	提出物
	「ネットワーク上のコミュニケーション」(読む)	○	◎		対比的な論じ方や具体例の意図をとらえ論旨をつかむ。	考查
	「対比して論じる」(書く)		◎	○	書き手の立場や論点などのさまざまな観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決める。	提出物
	第1回定期考查					
	「人を指す言葉-自称詞・対称詞・他称詞」(読む)	○	◎		具体例と筆者の主張との関係を的確にとらえる。	考查
	「仮説を立てて検証する」(書く)		◎	○	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	提出物
	「共感覚と比喻」(読む)	○	◎		問題提起と答えとをつなぐ論理の展開を的確に読み取る。	考查
	第2回定期考查					
	「政治を支える心構え」(読む)	○	◎		政治のあり方について、歴史的経過を踏まえ、具体的な説明と抽象論との関係をとらえる。	考查
後	「対立した意見を踏まえて書く」(書く)		◎	○	反論の想定をしながらテーマを分析し、自分の考えが的確に伝わる文章になるように工夫する。	考查
	「生物多様性の恩恵」(読む)	○	◎		筆者が指摘する問題点や代替案を、文理融合的な発想を踏まえて読み取り、筆者の主張を理解する。	提出物
	「日常に走る亀裂」(読む)	○	◎		概念の定義とそれに対する具体例を押さえ、筆者の問題意識をとらえる。	考查
	「無常ということ」(読む)	○	◎		筆者の思索の流れや論の展開のしかたをとらえる。	考查
	第3回定期考查					
	問題演習					